

県北 どらくろあ

第80号 2022年11月1日（毎月1日発行）

芸備線ストロール⑫ 野馳のち駅

「天然記念物の湿原と 大好きな図書館を再訪」

いよいよ今回は岡山入り。10月17日(月)、東城駅7時30分発の新月見駅行きに乗るべく計画を立てたが、前日の準備不足で出発が遅れ、高速道路を使うことにした。中国縦貫道庄原ICから東城ICまで約25分、東城駅の駐車場に車を入れて、無事、列車に乗ることができた。

新見高校の生徒が3人、わたしを含めて一般客が4人いたのだが、一般客の乗車を優先してくれる。ホームの先で列車の写真を撮っていたわたしが乗るまで、生徒たちは待機していた。清々しい気持ちになる。7分ほどで野馳駅に到着。ここで新見高校の生徒がたくさん乗り込んで来る。通学列車なのだ。降車したのはわたし

し一人。野馳駅に来たのは初めて。開業は昭和5年(1930年)、その当時の木造の駅舎が残っている。備え付けの長椅子の座布団に腰かけて、持参のロールパンで朝食。野馳駅を写生した小学生の作品が展示されていて微笑ましい。古い本棚には雑誌や漫画本が置かれていて、居心地の良い待合室だった。

きる。道路端や庭先、畑の畦道にコスモスが色とりどりの花を咲かせて揺れている。長谷寺(ちようこくじ)と皇大神社に参拝。曹洞宗の長谷寺は、高い石垣が美しい。小さなアーチ形の石橋を渡って山門に入る。扉の両脇の丸窓が印象的な観音堂の「しあわせ観音」の扁額を見て、戦火の終息を祈願した。皇大神社の祭神は天照大神(アマテラスオオミカミ)。一週間ほど前に秋祭りをしたばかりだそう、参道や境内はきれいに掃き清められている。

国道182号線に出たところ、ENEOSのガソリンスタンドがあるのだが、屋根が神社を模している。オーナーの趣向だろうが、歴史や文化を大切にしている岡山の県民性も影響？

野馳駅の駅舎には、地元の妹尾タクシーの事務所が入っている。窓口業務も受託、小奴可駅の道後タクシーと同じである。「鯉が窪湿原まで歩くことはできますか？」と尋ねると、「二時間以上かかりますよ」と驚かれた。距離的には次の矢神駅の方が近いが、11月から4月中旬まで冬季休業期間なので、芸備線ストロールでは今回が最後のチャンス。



鯉が窪湿原には 380 種類以上の植物が自生。

鯉が窪湿原までタクシーに乗ることにした。

20分余りで目的地に到着。管理棟で2000円の「保護協力金」を支払って入場。鯉が窪湿原は西の尾瀬沼と呼ばれ、380種類を超える植物が自生していて、国の天然記念物に指定されている。広さは3・6ヘクタールで、2・4キロの遊歩道が整備されている。

時期的に花を咲かせている植物は少なかったが、鯉が窪池周辺の遊歩道をのんびり散歩することができた。他に入場者はなく、心配した天気も持ち直して、贅沢な空間&時間だった。休憩所には鯉の餌が置かれていて、一袋50円。群がって懸命に食べ



る姿に、ついもう一袋追加してしま

う。管理棟から外に出て、小さな溪流沿いの道を下る。道端にノコンギクが紫色の花を咲かせている。高駅に咲いていたノコンギクを思い出した。この連載を開始して、ちょうど一年になる。

途中、矢田谷保全委員会の「ほたるの里」の看板がある。この土地はゲンジボタル、ヘイケボタルの生息地で、数は少ないが、ヒメボタルを見ることができるといふ。森の中を抜けて田園地帯に出ると、稲を脱穀したあとの籾殻を焼く煙が立ち昇っている。子供の頃に食べた焼き芋の味を思い浮かべた。



40分ほどで182号線に出る。道

路を渡ると近くに道の駅「鯉が窪」がある。その隣が「きらめき広場・哲西」(写真上)で、市役所支局、診療所(内科、歯科、薬局)、図書館、保健福祉センター、文化ホールを一体化した総合施設だ。哲西町は昭和30年、野馳村と矢神村が合併して誕生した。

わたしが15年ほど前に東城に通勤していたときに、この図書館によく通った。広島県民でも、すぐに図書カードを作ってくれた。漫画本の棚が充実しているのは驚いた。一般書籍は20冊、漫画本は10冊と、貸出限度数が多いのも嬉しい。

以前の習慣で、つい漫画コーナーの棚を物色してしまう。読みたい本がたくさんある。一冊手に取ってさわりを確認するつもりが、結局、最後まで読んでしまった。続巻が読みた

い。貸出口で確認すると、以前の図書カードがそのまま使えると言

う。迷ったが、今回は断念。重い本を持って東城

駅まで歩く自信がなかった。

道の駅のレストランで昼

食、「焼きたて米粉パンの店

こめ工房」でデザート&コー

ヒー。紫いもブレッドのもち

もちの疲れを癒してくれる。故郷や実家、家族等の制約がないのであれば、この図書

館の近くに住みたいと今でも思う。町の機能をこの地域に集約した施策は、過疎地のモデルケースになるのではないか。

国道182号線を東城に向かって歩いた。芸備線の線路や神代川のそばを歩くことになる。休耕田には、黄色い花をつけたセイタカアワダチソウが群生している。北アメリカ原産の帰化植物で、切り花の鑑賞用として導入されて野生化した。根から周囲の植物の成長を抑制する化学物質を分泌することで勢力を広げている。今では日本の風景に根付いてしまった。

5キロほど歩いた県境に、「牧水二本松公園」がある。明治四十年の夏、早稲田大学の学生だった若山牧水は、郷里宮崎県への帰途、中国山地を旅した。新見(備中)から東城(備後)に向かう途中、行き暮れて二本松峠の茶屋「熊谷屋」に宿泊、「けふもまた心の鉦をうち鳴らしうち鳴らしつつあくがれていく」、「幾山河越えさり行かば寂しさのはてなむく国ぞ今日も旅ゆく」の二首を詠んでいる。公園内にはその歌碑と、熊谷屋の建物が復元されている。

二本松峠は備後と備中の国境(くにぎかい)で、その境界には「御境坑木(おさかいこうぼく)」(写真下)という木製の門柱が建てられている。門柱をくぐって備後の国に入る。一首詠もうと空を仰ぐと、雨がぼつぼつ降ってきた。



どら書房の店主が毎月オススメ本を3冊選んでご紹介します。

「虚人 寺山修司伝」

田澤拓也 著 文藝春秋

天才、あるいは奇才と持て囃され、俳句や短歌、脚本家、劇作家、劇団「天井桟敷」の主催者と、多彩な活動で知られる寺山修司の実像。寺山の生い立ちを調べることで、寺山の自伝「誰か故郷を想はざる」に書かれた嘘を暴いて行く。「現実の表皮をいくらむいても、その正体は模倣と虚構のなかにまぎれ、すりぬけていく」、著者の言葉は容赦がない。



寺山の俳句や短歌、ラジオやテレビの台本は、すべて誰かの模倣……、その厚顔さと剽窃したアイデアをアレンジする能力、それこそが天才の所以？ 強烈な功名心は田舎者の劣等感の裏返しだと共感。作品こそがすべてである。

「おはぐろとんぼ」

宇江佐真理 著 朝日時代文庫

江戸下町の掘割を舞台にした短編集。6編の作品が収録されている。時代小説だが、剣豪が登場するわけではなく、ヒーローが活躍するわけでもない。貧困や災難に翻弄されながらも、懸命に生きる市井の人々の暮らしを描くことで、その家族愛が鮮明に浮かび上がってくる。

とりわけ印象に残ったのが「日向雪」、身内にも借金を重ねて兄弟の中でも嫌われ者の三男。そのあくどさが、これでもかと強調されているのだが、最後にホロリと泣かされる。いずれの作品も、後口がさわやかで、ほんのり温いのだ。時代小説は奥が深い。女性にも人気がある理由がわかったような気がする。



「ぼくの伴侶 猫と大佛次郎物語」

へげかもこ 著 少年画報社

鞍馬天狗の作者として有名な文豪、大佛次郎と、妻で女優の原田西子の物語。希代の猫好きで有名な大佛次郎は、生涯に500匹以上の猫と暮らしたといわれている。夏目漱石に内田百閒、谷崎潤一郎に三島由紀夫、いずれも劣らぬ大の猫好きだ。

帝国大学の学生の野尻清彦は劇作家志望だが、新進女優の西子に恋をして所帯を持つ。



関東大震災で故郷の鎌倉に転居した清彦は、生活のために時代小説を書くことになる。ペンネームは、鎌倉の大仏様にあやかって大佛次郎。猫嫌いだった西子も夫に感化されて大の猫好きに。大正モダンの雰囲気を楽しめる。全2巻。

「ぐんぐん伸びよう会」 (教室：庄原市川西町 241 連絡先：080-3631-9125 やないたえこ)

0～3歳は、子育ての黄金期。なんでも吸収する時期ですね。

「これなあに？」、「どうして？」と何でも疑問に思う時期です。そんな時、「後で」と大人が子どもの相手をしなせないと、質問をしない子どもになってしまいます。

乳幼児には、絵を見て楽しめる絵本を読んであげましょう。

気に入った本は、「もう一回読んで」と催促されます。何度でも読んであげましょう。
繰り返しながら言葉の世界を広げていき、視野の広い子に成長してほしいですね。



体験学習受付中！！ お気軽に問い合わせください。

対象者：0歳～小学6年生

庄原の不確かな歴史ドラマ——永江の庄から現代まで⑧ 「英学校」の英語はどんな水準だったのか

——片田舎に向学の夢を灯す

音谷健郎

明治の文明開化とともにいち早く

開校した尋常高等学校の「庄原英学校」は、8年後には資金難で閉校しました。だが、この学校がかざした文明への憧れは、やがてこの草深い山間から、多くの人材を全国に送り

だしました。

実は、英学校の開校は、慶応義塾を起こした福沢諭吉を抜きには語れないのです。諭吉は「天一人ノ上人ヲ作ラズ」の信念を広めるために、日本の各地に中等学校（旧制中学校）

の開設を呼びかけ、慶應義塾の出身者を教師として派遣したのです。「英学校」を「慶應義塾分校」と呼ぶ人がいたほどです。

庄原では、明治15（1882）年、伊藤薫三や田部百谷の次男らが教育を受けるために上京し、慶應義塾に学びます。明治31（1898）年までに18人に及んでいます。

「英学校」は明治17（1884）年に開校します。諭吉の方針で慶應義塾の修了生が多数、教師として派遣されて来ました。教授学科は、「英学、

数学、漢学」の3教科。大学予備門や官立学校などの入学志願者を養成するとし、米国人宣教師J・W・ランバスらを招き、英語に力を注いでいます。その長男も来日し、ほどなく関西学院の創設とともに院長になっています。

「英学校」の生徒は、近隣だけでなく近県からも集まり、最盛期には全校250人規模になりました。他県からも多く来て、寮生活をしていました。

背景には、江戸末から明治にかけて、めざましく発展した庄原の経済活動があったからです。募金・寄付



英学校とそっくりで作られた
備北丘陵公園正門のビジターセンター



開校時の「英学校」の写真。
移転前の庄原小学校、現在の庄原文化会館の土地



「英学校」の「英学」に貢献した米国人
宣教師J・W・ランバス

と合わせて、紡績工場、小作地の収益をつぎ込んでの学校運営でした。しかし、紡績不況と政府による尋常高等学校の制度化があり、規定に当てはまらなかった「英学校」は生徒が激減し、経営が行き詰まったのです。8年後の明治25（1892）年に閉校します。

倉田百三は、英学校が閉校する1年前の生まれなので、英学校には学んでいませんが、「育英塾（英学校のことか）」というのが昔あったそうだ。「昔は県下でも庄原は学問が進んでいたんだって」と語り（自叙伝『光り合ういのち』）、その気風は受け継がれていたようです。

百三は、早くから庄原に開設した



若い頃（昭和2年以前）の倉田百三の肖像
「出家とその弟子」発表の頃か

教会に、フランシス米国宣教師の時代に出入りしたようです（松山静著『北風よ起これ 南風よ来たれ』より）。この教会の青年会のメンバーだったとのこと。英語に親しもうとしたのではないのでしょうか。これらの経緯は、「庄原英学校の8年」の項目を設けている『庄原市の歴史・通史編』（2005年刊）からもうかがえます。

英学校の隆盛は、教育分野での庄原の地位を高めており、「英学校」では「盛になるは英学にして目下他県下より来学せるもの70余名」と、当時の「芸備日報」に報じているとのこと。百三は、「庄原は広島県下で文化が高く、私たちは小学校で英

語をやり」とも述べているのです（前掲『光り合ういのち』）。明治24（1891）年、「尋常中学校設備規則」ができ、「英学校」は正規の中学校とは認められず、生徒が激減します。

ここから先は、博識の郷土史家、武田祐三氏の『庄原英学校ものがたり——中国山地の慶応義塾分校』（シンセイアート印刷）が今夏、上梓されているので助けを借りることにします。

それによると、英学校の初代校長は福沢諭吉が実業家から人選して送り込んでいます。また、英学校の閉校後も、慶應義塾には、ランバスの関係した関西学院ともども、庄原から多くの人材が進学しています。



長く庄原小学校があり現在、改装中の庄原文化会館敷地に立つ記念碑
「英学校跡地」

なかでも「英学校」卒業の板倉卓造は、慶応義塾法学部教授を長く勤める傍ら、福沢諭吉の後を継いで「時事新報」の主筆、社長をしています。上下町出身の岡田実麿の受験英語参考書は、昔の大学受験英語参考書である「小野圭」こと小野圭次郎のものとともに広く使われたと言います。岡田の実妹の美知代は田山花袋「蒲団」のモデルになったということになります。

武田氏は、浅野氏支藩4万石の城下町の三次に先駆けて、一寒村で格の違う庄原に、英語に重きを置く「英学校」ができたことについて、「庄原は武士階級の居ない村であり備中伯耆路と出雲路が交差し、いくらか風通しもよかったのかもしれませんが」と、やんわりと結論づけています。

「英学校」の精神が教えてくれることは、この町、庄原を「草深い田舎で」と卑下することはないということ。むしろ、知育に特化することなく、暮らし全般にかかわりながら成長すること、幅広い見識を備えた人たちを輩出したのです。ここに登場した板倉、岡田といった人たちの思い起こしてほしい。

最終回の今回は、「この町が送り出した人たち」を探ってみます。

「植物画とは何か
—日本の植物図譜を中心に—」(11)



牧野富太郎 (ウィキペディアより転載)

「第80回特別展 植物学者牧野富太郎が登った吾妻山」にはウチワゴケ、ツルホラゴケ、イワヤシダ、そして、カラクサシダの原図(牧野植物園所蔵)が展示されている。

ウチワゴケの原図は和紙へ毛筆で描かれた全形図を置き、中央に1個の孢子嚢群をつけた葉と孢子嚢の断面拡大図を置き、下部左に孢子嚢群を2個つけた葉片の拡大図、下部中央に孢子嚢群の拡大図、下部右に孢子嚢の拡大図を配置し、巧みな構図となっている(図1)。

中央の1個の孢子嚢をつけた葉と下部中央の孢子嚢群の拡大図、そして、下部右の孢子嚢の拡大図はケント紙へ毛筆で描かれ、中央右の孢子嚢群の断面拡大図と下部左の孢子嚢群を2個つけた葉片拡大図は毛筆で和紙へ描かれている。恐らく牧野は孢子嚢群を1個つけた葉はルーペを使い、孢子嚢群断面拡大図と孢子嚢群は顕微鏡を使って、その微細な構造を観察しながら図を作成したと考えられる。和紙とケント紙を使っているから、多くの準備図を作成し、その中から牧野の眼にかなったものを選び、原図を作成したと考えられる。ウチワゴケの根茎は長くない、長さ1~2cmの小さな葉をつけている状態が全形図からよくわかり、葉の形が団扇状に巧みに描かれていることから、和名の由来が説明されるまでもなくわかる。なお、ウチワゴケは暖帯~亜熱帯に分布しているシダ植物で、広島県中部以南に自生している。牧野日本植物圖鑑初版(1940)では、1個の孢子嚢群をつけた葉を上面中央に置き、全形図を左下、その下へ孢子嚢をつけた葉片、下部中央に孢子嚢群の断面拡大図、そして、その右へ孢子嚢、ラップ状の孢子嚢群を配置し、新撰日本植物圖説第1巻第3集第14図版の図と異なっている。

ツルホラゴケの原図の余白に明治10年前後1月、土佐高岡郡尾川村大元から採り來ったモノと記されているから、まだ、牧野が佐川小学校の授業生のころ、採集した標本を写生し原図を作成したものと考えられる。

ツルホラゴケは、根茎が著しく長くはい、黒褐色の毛を密生するが、その状態がこまかく描かれている。中央に精細に描かれた全形図を置き、中央上部へ、裂片の先端についている孢子嚢群の拡大図、右中央に孢子嚢群をつけた葉と、中央下部に孢子嚢群をつけた葉片の拡大図を配置し空間を巧みに使って作成されたようすが、よくうかがわれる。全形図など、すべての図はケント紙に筆で描き、それら図を切りとって配置し、作成している(図2)。

ツルホラゴケは、暖帯~熱帯に広く分布し、本州では東京都伊豆諸島までの太平洋沿岸と日本海側では島根県を北限とし、四国、九州、沖縄県に分布する常緑性のシダ植物である。山口県には比較的多く自生地がみられるが、広島県からは自生が確認されていない。牧野日本植物圖鑑初版(1940)にも、牧野日本植物圖鑑改訂版(1949)にもツルホラゴケは掲載されていない。

著者紹介…一九三一年、比婆郡(現・庄原市)比和町に生まれる。農学博士(九州大学)。昆虫や動植物などの自然科学、郷土史や民俗学を含めた博物学の研究者で、著書は多岐にわたる。

※中村さんの回想録的なコンセプトで編纂された「虫と草木と人びと」(シンセイアート出版)から、著者の許可を得て、その一部を抜粋、転載しています。

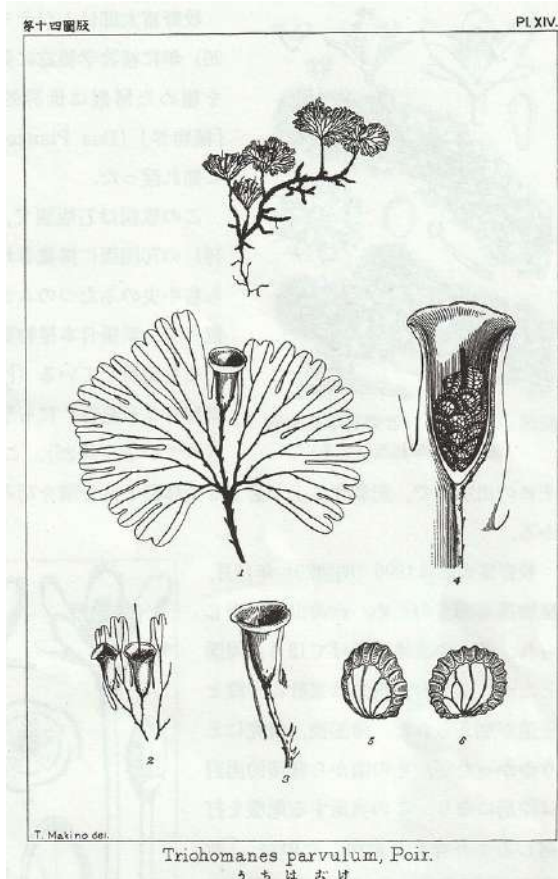


図1 ウチワゴケ

(新撰日本植物圖説第1巻第3集第14図版による)



図2 ツルホラゴケ

(新撰日本植物圖説第1巻第5集第22図版による)

「つれづれ歌談」②9

松岡初枝

世は無常、人の命も常ならぬものと思つてはいても、葛藤しつゝ生きるのも人間です。

・世の中を何に喩(たと)へむ朝開き漕ぎ去(い)にし舟の跡なきごとし 沙弥満誓(さみまんせい) 世の中を何にたとえよう。朝漕ぎ出た舟の跡が無いようなものかなあ。

・水泡(みつぼ)なす仮れる身そとは知れれどもなほし願ひつ千年(ちとせ)の命を 大伴家持 水の泡のような儂い身と知つても、それでも千年の命を願うものなのだよ。

満誓という僧は、筑紫に観世音寺を建てるために派遣された人で、太宰府長官であった大伴旅人

とは歌を通じて交流があり、家持も知己の仲でした。やはり太宰府人脈であった憶良は、彼特有の優しい歌を詠んでいます。

・稚(わか)ければ道行き知らじ幣(まひ)は為(せ)む黄泉の使負ひて通らせ 山上憶良

まだ稚い子なので、死出の道行きも知らないだろうから、あの世の使いさん、背負って行ってあげてよね。

知り合いの幼な子の死を悼んで、父母に贈った歌ですが、哀しみに寄りそう秀歌です。

・沖つ国うはしく君の塗(ぬり)屋形丹(に)塗りの屋形神が門(と)渡る 作者不詳

・人魂のさ青(お)なる君がただ独り逢へりし雨夜の葉非左(はひさ)しそ思ほゆ 作者不詳

この二首は恐ろしき物として詠まれている歌です。沖の果てに死霊ひしめく国がある。その国を治める人が乗る船、ほーら、おむかえの船だ。やがてお前も乗るのだぞ。二首目、人魂のような青い顔のあなたに、たったひとり雨の夜に出逢った。あー恐ろしやー。

死出の国がいかなる所か、知りたくもあり知りたくもなし。



ホームに降り立ったときに嘩然とした。駅舎が見当たらない。単線の線路で片側しかないホームに、プレハブの小屋のような待合室があるだけだ。

列車が走り去った後を、未練らしく眺めていたら、黒っぽい小さな塊が、線路の中に入って来た。タヌキだった。歓声を上げて手を振ると、キョトンとした顔でオレを見ていたが、線路脇の叢の中に姿を消した。背の高い草が群生して、黄色い花をつけて揺れている。

こんな所に来るつもりはなかった。人のいない場所に行こうと、行き当たりばったりでローカル線乗り継いでいた。無人駅なら運賃を踏み倒せるだろうと安易に考えていたが、一両だけのワンマンカーで、運転手が降車客のチェックをする。

所持金を計算して、この駅を乗り過ぐすと運賃が足りなくなることに気づいた。料金箱に硬貨を投入すると、残ったのは十円玉が三個だけ。「これじゃあ、缶コーヒーも買えないな」

そう呟いて苦笑した。商店はおろか、自販機があるような場所ではなかった。

(こんなもんだったんだな)

紅葉した山を見上げて、自虐した。オレたちは、こんなもんじゃない！オーディションに落ちる度に、何度も何度も自分に言い聞かせた。審査員に、オレたちの笑いを評価するセンスがないだけだ。無理して金を作って、単独ライブを強行したが、小さな劇場の半分も客席は埋まらなかった。

「ネタが、ぶつとび過ぎてるんだ。大

秘境駅

現代御伽草子 ⑦④

あきふゆひこ
亜木冬彦

※県北の歴史や風物を題材としたフィクションです。

丈夫、あと何年かすれば、客の方がオレたちに追いついてくる」

「悪い、おれ、抜けるわ。実家に帰ってパン屋を継ぐよ。正直、おまえのネタ、おれにもようわからん」

相方のスネオに逃げられた。馬鹿野郎、オレはこんなもんじゃない！猿岩石の有吉だつて、ピンになってから天下を取ったじゃないか。

食うに困って、金になることはな

んでもした。地下カジノのポーカールームに嵌ってからは、街金のヤバい金、ヤバい仕事に手を出した。特殊詐欺の受け子として、独り暮らしの婆さんの家を訪問したときに目が覚めた。新潟で一一緒に暮らしていた父方の祖母とよく似ていた。

「ばあちゃん、オレみたいなもんを簡単に信用しちゃダメだよ」
そのまま、着の身着のまま遁走

夢を見ていた。満月の下、四つ足で歩く自分の姿が見える。全身が真っ黒な猫の姿になっている。跳躍するように、神社の石段を軽々と登って行く。鳥居を通り抜けて山門をくぐり、神社の境内に足を踏み入れた。

待合室のベンチに腰かけて、最後の一本の煙草を吸った。「秘境駅ノート」と書かれた大学ノートが置かれていた。ぱらぱらと拾い読みすると、意外と遠方の客が多いことに驚いた。しかも、この駅に来るのを目的に、電車や列車を乗り継いで来ているのだ。何度も来ている常連もけっこういるようだった。

新潟の祖母の家に預けられていたときのことを思い出した。田んぼと畑に山と川、田舎の景色はどこも似たようなものだ。
(腹が減ったな)
タバコをフィルターまで吸い切ると、立ち上がった。改札はなく、ホームの先に砂利道が続いている。道路端にたわわに実っている柿の木を見つけて、一個もぎ取った。上着の裾で拭いて齧ると、柔らかく熟した果汁がとて甘い。柿を食べたのは何年ぶりだろう。

(こんな何もない所に来て、どうするんだ?)
オオイチョウの葉が黄葉して、黄色に輝いている。地面にもイチョウの落葉が敷き詰められている。背後で落葉を踏む音がして、振り返ると片目の猫がいた。
(ジャック!)
新潟のばあちゃんがかわいがって



いたキジトラの雄猫だった。飼っていたのではなく、野良が勝手に家に居ついたのだ。ふてぶてしい大きな顔で、家の中を我が物顔でのし歩いていた。うちの番猫、ばあちゃんはジャックのことを近所の人にそう言っていた。

そのジャックの姿が突然、消えた。何日か前から、餌を残すようになつた。昼間から部屋のすみに蹲つて、ウトウトとしていることが多くなつた。

「お迎えがきたんだよ。もうかなりのおじいちゃんだったもんな。仕方がねえさ」

そう言うばあちゃんの顔は、寂しそうだった。

「おれにもいつお迎えがくるかわかんねえもんな」

そう言つて笑つた。

「親父はなんで、自殺したんやろうなあ」

身体の奥に押し殺していた言葉がこぼれ出た。ばあちゃんはしばらく、厳しい顔で考えていた。

「おれは教養がねえから、むずかしいことはわからんけど、たぶん心にカビが生えたのさ。ほりや、都会は風通しが悪いぞら」

につこり笑つた。

「ばあちゃんは朝、目が覚めたとき、ありがとうつて、神さんに感謝してるよ。こうしてまーくんの顔を見て、声を聞いて、話をする事ができるもんな」

そんなばあちゃんの葬式にも出ず、オレは朝からパチンコ屋にいた。恩知らずのロクデナシだと思つづく思う。

ジャックに顔をベロリと舐められた。片目が笑っているようだ。

いつの間にか、オオイチョウの木、猪、猿や熊までも集まつて来ている。動物だけではないようだ。大きく口

を開け夜空を見上げているのは、神社の阿形の狛犬だ。吽形の狛犬は、首（こうべ）を垂れて全身に月光を浴びている。

山から湧き出してくる清水が、水管を通つて貯水槽の大甕（がめ）に滴り落ちて、水琴窟のような澄んだ音色を奏でている。その音が秋冷の夜気を震わせて、身体の中にまで沁み込んでくる。月光が皮膚を青白く照らして、ほのかに暖かい。オレは我慢できず、背中を大きく反らしてノビをした。いい気持ちだー。

目が覚めると、身体の上に毛布が掛けられていた。昨日、心配して声をかけてくれた近所の農家のお婆さんだろうか。

ベンチから起き上がると、入口の丸椅子の上に、小皿が置いてあるのに気づいた。透明なラップにくるんだおにぎりが三つ。一つ取り上げてラップを外し、かぶりついた。

（うまいー）

薄塩の何も入っていないおにぎりだが、たまらなくおいしかった。ばあちゃんが作ってくれた新米のおにぎりの味だ。夢中で頬張っているうちに、塩味が強くなった。涙が溢れ出ていた。

まつの古本屋さん どら書房

古書探索の旅に、お気軽にお立ち寄りください。

- ・無料本、百円本、50円本などのコーナー。無料の漫画ルームもあります。
- ・地元の絵葉書、新鮮野菜の店頭無人販売もやっています。

※九日市の開催日は定休日でも開店します。

- 庄原市中本町 2-1-10
- 定休日：毎週月・火曜日（2月は店内整理で全休）
- TEL: 090(9913)3052
- 営業時間 9:30～18:30

※広島銀行庄原支店の手前（三次側から）※交差点角のまちなか駐車場が使用できます。

「旧暦」のカレンダーを見る

古川行洋

五 月の名称について(1)

昔の人々にとって、太陽は季節を知る目安で、月は月の経過を知る目安であった。この月の満ち欠けを基準とした暦が太陰暦である。月の満ち欠けにより、この月にいろいろな名称が付けられている。それを覽てみよう。



新月旧暦で、毎月第1日目の月、

すなわち朔(訓読みでついたち)をいう。朔のとき、太陽・月・地球が一直線に並ぶので、新月は肉眼では見えない。現代では、西洋天文学の影響で、朔を「ニュー・ムーン」というところから、朔を新月と言うようになった。

二日月(ふつかづき) 旧暦で、毎月第2日目の出る細い月のことをいう。日没後、すぐに沈んでしまう。江戸時代初期には、「二日払い」といつて、吉原などの遊里(遊廓)の勘定は毎月二日の支払いと定められていたという。

三日月(みかづき) 旧暦で、毎月第3日目の夕方に出る細い月。初魄(しよはく)とも呼ばれる(魄は月の光が当たらない部分のことをいう)。または、始生魄(しせいはいく)、哉生明(さいせいめい)、朏魄(ひはく)、磨鑿(まごう)、彎月(わんげつ)、織月、初月、若月、虚月などと呼ばれる。ほかにも月の剣、月牙、眉月、蛾眉(がび)などとも呼ばれる。

三日月は形が美しく、眉を連想させる。通い婚が一般的だった奈良時代など、自分の眉に痒さを感じると「明日はあの人と会えるかも知れない」と思ったりした。また、昔の人は、三日目の鋭い形を見て、それに不思議な力、霊力があると信じていたのか、主家・尼子氏の再興に執念を燃やした山中鹿之助は三日目を信仰していたことで有名である。

上弦・七(八)日月 旧暦で、毎月第7日目・八日目の夜に出る月。上弦の月名だが、月の入りのとき、弓を張ったような形に月が見えるところから、この名がある。また、月の舟、上の弓張り、玉鉤(ぎよつこう)、古代中国で儀式のとき、革帯を玉で作ったかぎでとめた、このかぎのこと)ともいう。

十三夜月 旧暦で、各月の十三日目の夜に出る月。特に旧暦九月十三日の十三夜は「後の月」と称し、十五夜について月が美しいとされ、宮中では古くから月見の宴が催された。民間ではこの夜、月を祭り、秋の収穫を感謝する十三夜の行事が行われた。

小望月(しようもちづき) 旧暦で、毎月十四日目の夜に出る月。十五日の前夜に出るところから小望月と

いう。また、幾望(きぼう)ともいう。これは、望(満月)にちかい(幾)月、つまり十四日目の月という意。

満月旧暦で、各月の十五日目の夜に出る月。十五夜、望(もち)、望月、また満月の月、三五の夕べ、ともいう。特に旧暦八月十五日の月をいうこともある。月見の佳節(めでたい日、祝日)として、古くから月を祭る習慣があった。満月の夜には、古くから多くの行事が行われてきた。

十六夜(いざよい) 旧暦で、各月の十六日目の夜に出る月。満月が少し欠けたような形をしている。十六夜の月、既望(きぼう)、哉生魄、不知夜月とも書く。月の出が四十分から一時間程度遅くなるので、そのことを月がためらっているとい見立てたのではないか。

立待月(たてまちづき) 旧暦で、各月の十七日目の夜に出る月。十七夜月、立待ちの月、たちまち、ともいう。夕方、前日より少し遅れて出てくるので、立って待つぐらいがちょうどよい月の意。

居待月旧暦で、各月の十八日目の夜に出る月。座待ち月、居待ちの月、居待ちともいう。月の出が日没よりだいぶ遅れるので、座って月を待つことになることを表現している。

海外旅行ツアー・コンダクター・エピソード⑫

各国のトイレ事情・「紙なしのトイレ」や

窓からの絶景」

山崎 允まこと

中国の公衆トイレ。金木犀の香りが漂い出すと桂林と漓江下りを思い出す。乗船前に公衆トイレを探すと萱で囲まれた青天井のものがあつた。勿論、和風の踏ん張るタイプ。用を足して出たら、はるか先を農家の人が肥え桶を担いで田の畔を歩いていた。

我々が泊まったホテルでは水洗式だった。でも水圧が低く、紙質が悪いので紙を流さないよう要請され、おしりを拭いたトイレットペーパーは備え付けの箱に入れておくという習慣だった。

コロナがまん延する前のこと、中国人旅行客が日本のトイレットペーパーを持ち帰るケースがあり、阪神間のJR駅のトイレットペーパーには簡単に外されないよう金属製の枠が装備されていた。このことが新聞記事にもなっていた。

コロナが下火になりインバウンド（訪日旅行）ブームが戻ってきたら、中国人客の土産物リストに日本製「ウオッシュレット」のトイレが入るので

はないか。以前は一人で2台ぐらい買って、空港で包装箱を捨てて帰るので後始末が大変だったのだが、その騒動が再発する？

パリのカプセル・トイレット。町の中にドアが開いたままでもたずんでいて、コインを入れるとドアが閉まり、用足しすることが出来る。終わって、外に出ると自動的にドアが



閉まり、シャワーが出てきて便器のほか壁まで全部洗浄する。限られた時間内に終わらないとシャワーの洗礼を受けることになるので注意が必要。

インドのトイレには紙がなかった。用を足した後、水を入れた手桶を右手にもち、左手の指にちよつと水をかけてぬらす。その左手の指で肛門を拭い、汚れた指に再び水をかけて洗う。これを何度か繰り返してお尻を洗うというわけだ。従って、左手は不浄とされ、握手をしたり、人差し指したり、ましてや、子供の頭を撫でたりしてはいけないのだ。

アメリカの大部屋のトイレ。約50年昔になるが、アメリカはベトナム戦争の真つ最中。ミネアポリスのノースウエスト航空本社に営業に行った時のこと。同社はベトナムへ兵士の派遣輸送の役割を一手に引き受け、戦死した兵士の本国への移送も行っていて、輸送実績が最大の航空会社であった。

トイレのドアを開けて驚いた。8台ぐらゐの便器が横一列に設置されていた。そればかりか、隣のトイレとの間に壁の仕切りがなかったのだ。尻を丸出しにして隣に座っている同僚と世間話をしながら用便をしてい

た光景が“異常”に思えて、用を足すのも忘れて引き返した。社員が用を足しているときに上司が入ってきたら、直立して挨拶するのかと訊くのをおぼれた。

別の日、公衆トイレのドアの下半分がなくて、足の部分が見えるトイレに出くわした。犯罪に巻き込まれないよう、外から判別できるとのこと。もう一つの理由は、ホモのカップルがトイレ内を利用することを防ぐためだという。

ドイツ、ロマンチック街道のトイレには感激した。中世のたたずまいを保存するために、街道沿いの建物は昔のまま、大きな建物の変更は認められていない。屋根の色、壁の色、そしてお店の看板に至るまで大きな規制が施されていた。

そのロマンチック街道の南にあるフュッセンのこと。ルートヴィヒ二世が建てたリンダーホフ城のトイレに入っってびっくり。窓から、これから向かうノイシュバンシュタイン城（写真、ウイキペディアより転載）が見えるではないか。「白鳥城」として知られ、街道の終わり（南）のハイルイト。もしトイレに入らなければ、あの素晴らしい景色に出会うことはなかった。

どろくろ俳壇&歌壇

※参加を歓迎します。

黄金の大判振る舞ひ銀杏散る

近藤 昌平

我が庭のコスモス律義に揺れてをり

富久光

空青く地に咲く赤き曼殊沙華

片岡 正人

豊作の柿採る人も無し過疎の村

隆愚

皇后に喪の首飾り秋の虹

大槇 三代子

虫の声経のごとくや耳の底

寺内 龍二

セイタカの花泡立ちて休耕地

赤川 冬人

彼岸会えの墓参の帰り太やかな

松岡 初枝

さんま買い来ぬみじか陽の午後

投稿&寄稿

候のことば

「新嘗祭」

隆愚

十一月二十三日の勤労感謝の日は、もともと秋の収穫に感謝を捧げる新嘗祭の祭日でした。国民の祝日として、昭和二十三年（一九四八年）

に制定されました。その年に収穫された新米や新酒を、天地の神様に捧げて御礼をするお祭りの日でした。村々の氏神神社でも行われていました。一説には飛鳥時代からともいわれるほど、古くからある行事で、今でも宮中や伊勢神宮などの神社で行われています。

新米といふよろこびのかすかなり

飯田龍太

「芸備線で上京」 赤川仁洋

十月に上京する機会があった。いつもであれば、飛行機で行くのだが、下火になったとはいえ、密室となる機内では新型コロナ感染が怖い。新幹線を使うことにした。

ちなみに飛行機だが、尾道―松江道ができる前は広島空港を利用していたが、今は出雲空港。理由は簡単、出雲空港は駐車料金が無料だから



だ。三次東ICから松江道に入り、三刀屋木次ICを過ぎると有料の山陰自動車道に合流するが、宍道ICを出てしばらく走ったところに空港がある。道がわかりやすいし、高速なので思ったほど時間はかからない。

さて、どうやって新幹線の走る駅まで行くか。今までは、三次経由で広島駅まで出ていた。今回はその逆、新見経由で伯備線に乗り継ぎ、岡山駅に出る。しかし、備後庄原駅から芸備線に乗っていたら、乗り継ぎの備後落合駅の接続が悪くて時間をロスしてしまふ。

裏技を使うことにした。東城駅まで車で行く。無料の駐車場に車を置いて、7時30分発の新見行きに乗る。備後落合駅から始発の6時41分の列車に乗ってもいいが、帰りのことも考えて、東城まで行くことにした。

8時7分新見駅着。新見駅では、伯備線に岡山行きの特急「やくも」が1時間毎に乗り入れている。8時34分発の「やくも」に乗って、9時39分岡山駅着。それで、9時58分発の「のぞみ」に乗ることができた。東京駅には13時15分着。こうしたルートが頭に浮かんだのも、芸備線ストロールの取材のおかげである。

どらくろあ 掲示板

地域のイベント情報やメンバー募集など
情報掲示板です。

どらくろあ ホームページ

バックナンバーも掲載して
いるので、ダウンロードして
お楽しみいただけます。



<http://shobara.wix.com/dorakuroa>

「庄原を想う会」主催の交流会

「気軽に庄原について話し、仲間の輪を広げよう」

日時：12月17日(土) 13:30～15:30

テーマ：「むかし話の裏話にせまる。

～ちょっと気になる庄原のむかし話～

講師：岡野茂氏（絵本作家）

会場：交通交流館（備後庄原駅隣接）

参加費：500円（学生200円、お茶菓子込み）

申込み＆問合せ：080-3631-9125（柳井妙子）

マック☆ヤマザキ 国内スケッチ展

本誌「海外旅行ツアーコンダクター」の連載でお馴染みの山崎允さんのスケッチ展第二弾。今回は国内のスケッチ。2002年に「わくわく！芸備線」（菁文社）の表紙絵を1年間担当、その冊子や原画も展示します。その他、東京浅草仲見世、新橋駅風景、鎌倉八幡宮、神戸六甲アイランド、宮島、出雲大社等のスケッチです。

日時：11月16日(水)～30日(水) 9時から17時半

場所：東城まちなか交流施設えびす

(☎08477-3-0788、木曜休み)



「手仕事の仲間たち」作品展

すべてハンドメイドの楽しい作品展です。自分でも作ってみたい
なるかもしれません。

出店者一覧：「和小物 かなや」「人形のふーさん」「和雑貨 我楽」「帽
子ギャラリー 創美」「さをり 昌子織」「寄せ植 生駒」「羊毛フェル
トくららおばさん」「額 工房アム」「焼き物石陶器 内藤」「着物リ
メイク ちくちくはうす玉手箱」

日時：11月19日(土)、20日(日) 10時～16時

場所：庄原ショッピングセンター ジョイフル2階

主催：ちくちくはうす玉手箱 (080-1906-3391 宍戸)



編集後記

◇芸備線ストロール、
いよいよ岡山入りで
す。未知なる土地……、
ではなく、わたしに
とっては懐かしい場所
です。

◇「マック☆山崎の国
内スケッチ展」、芸備
線の作品もあるようで楽しみ
ですね。芸備線に乗って、観
に行こう！

◇上京したときの新幹線はほ
ぼ満席。帰りはちょうど「ゴ
ー・トラベル」の開始日
で、自由席の車両は立ってい
る人もかなりいました。この
ままコロナ禍が収まってくれ
ることを願います。

◇サンフレッチェ広島、ル
ヴァン杯優勝おめでとう！
リーグ戦に天皇杯と、すばら
しい活躍でした。

◇今回は芸備線特集ですね。

発行：どら書房

〒727-0012

庄原市中本町 2-1-10

☎090(9913)3052(赤川)

e-mail: touzin@nifty.com

誌面デザイン: ROUTE183

協賛: 九日市愛好会

第 254 回

「庄原九日市」

令和 4 年 11 月 9 日 (水) 9:00~13:00

庄原九日市とは？

天正年間(440年前)に物々交換で始まった市(いち)

昭和年代の戦争で途絶えていた市を、市街地活性化ボランティア活動として空き店舗などを活用し2001年に復活

TOPICS

★市民ギャラリー「アート多愛夢」

11月7日(月)~11月9日(水) 10時~15時

森原多美子水彩画展

★どら書房→休憩所あります!!

月曜日と火曜日はお休み

但し、九日市の日には営業します。

★楽笑座「まかない食堂」中止

「うた声喫茶」 開催 13:30~15:00

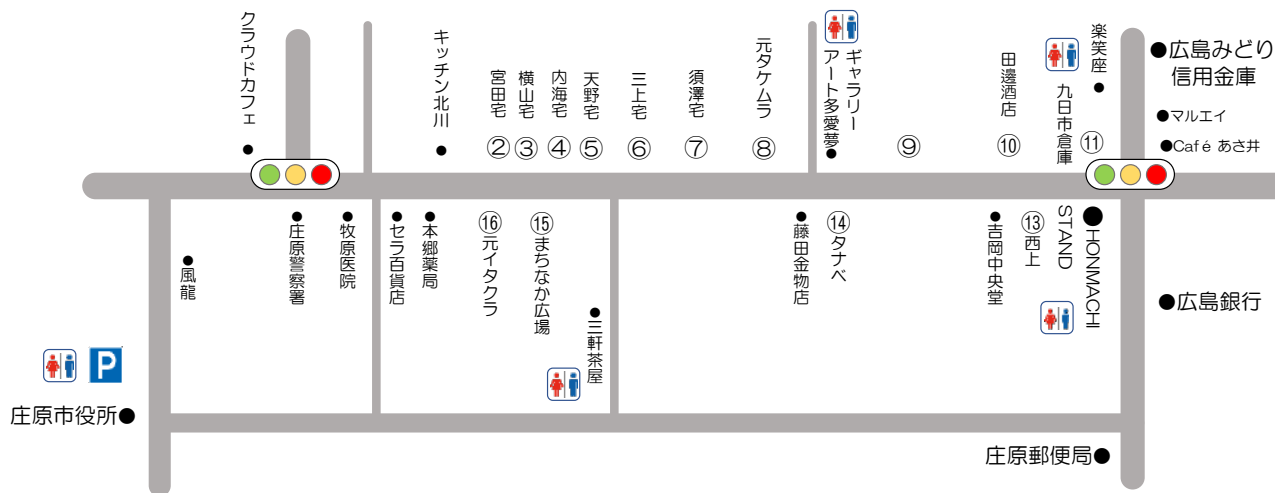
★風龍→九日市スペシャルで餃子200円!

★HONMACHI STAND→コーヒー100円引き

★カフェクラウド→タピオカドリンク100円引き

九日市特製ピタサンド600円

出店配置図



②お休み

③文屋

④お福
郷屋

⑤工房アム
ぬくもり
ちくちくはうす玉手箱

⑥Room of keiko
和み屋
くららおばさん
なかや

⑦農楽会

⑧二八そば加工所
さだっさ
健康企画
17KITCHEN
アーミッシュ

⑩克國水産

⑪penguin 屋
フリースペース庄原

⑬久代水産
くんえん工房 香豚

⑮どんぐりーす
里山キッチンほっぺ
佐藤園芸
田崎屋
天田森田農園
宮川屋

⑯庄原小学校 3年生

出店申込みは、【毎月20日締切】コンパネ1枚スペース1,000円~ 九日市愛好会事務局
〒727-0013 庄原市西本町2-1-10 楽笑座内 TEL/FAX 0824-72-8285

ホームページ
<http://www.kunchi-ichi.jp>

